

目次

118	親鸞のいう「自力」とは……………	渡邊了生……………一
117	寡黙なる妙好人……………	龍口明生……………七
116	他力の信の継承——親鸞から善鸞へ——……………	藤井淳……………一四
115	妙源寺本「光明本尊」の構成とその意義……………	安藤章仁……………二一
114	『獲得名号自然法爾御書』の釈風について——天台教学との関連性——……………	四夷法顕……………二七
113	玄智教学の研究——『考信録』を中心とした行信論——……………	掬月即勝……………三一
112	真宗伝道学体系の一試論……………	奥田桂寛……………三五
111	中世浄土信仰と破地獄文——「玄通蘇生譚」の流伝について——……………	那須英勝……………三九
110	念仏聖信仰の一考察……………	田中夕子……………四七
109	不断念仏と『往生要集』……………	伊藤茂樹……………五三
108	親鸞における「疑」の研究——特に『往生要集』との比較を中心として——……………	宮地崇……………五八
107	珍海撰『決定往生集』における凡夫観……………	成瀬隆順……………六二
106	颯田本真尼の外護者について——細川、本間、泉谷、E.A. Gordon——……………	坂上雅翁……………六六
105	普一国師志玉の華嚴学——真福寺文庫蔵『五教章視聽記』を中心に——……………	野呂靖……………七二
104	頼宝撰『真言本母集』に見られる禅籍について……………	千葉正……………七九
103	真福寺大須文庫所蔵『林葉抄』の検討……………	佐藤もな……………八三
102	済暹の『四種法身義』における法身説法論……………	マシュー・マクマレン……………八九
101	『天台一宗超過達磨章』に見られる禅宗批判……………	Stephan Licha……………九三
100	日本律宗における「賢首大師法蔵」……………	大谷由香……………九八
99	戦時下アメリカにおける日蓮宗の展開……………	安中尚史……………一〇四
98	日蓮の「事具一念三千」に関する一考察——教学用語としての問題点——……………	三浦和浩……………一二
97	日隆における日本天台史観の一考察……………	米澤晋之助……………一六

——五大院安然作『真言宗教時義』を中心として——……………

米澤晋之助……………一六

119	義教撰『浄土真宗論客編』における日蓮宗への論駁——仏土論を中心に——	庵谷行遠	二〇〇
120	日蓮聖人真蹟遺文解説の問題点について	松岡正次	二二四
121	鎮源『法華驗記』の持経者像——常不輕菩薩と基燈法師——	岡田文弘	二二八
122	大徳寺に在った関山宛書簡と編年誌	木村俊彦	一三二
123	前後際断と有時の経歴——道元禪師における「存在と時間」私考——	石井清純	一四〇
124	南英謙宗撰『伝法偈下語』の意義——如浄・道元に関する説示を中心として——	龍谷孝道	一四八
125	黄檗僧懷玉道温編『諸州伽藍開基記』について	高井恭子	一五四
126	『金七十論私記』について	興津香織	一六〇
127	島地大等の本覚思想観	川元恵史	一六五
128	清凉寺所蔵国宝十六羅漢像「尊者大迦葉」幅の様式年代について	高間由香里	一七〇
129	傳大士と菩薩戒思想	中島志郎	一七六
130	僧肇の菩薩理解——特に法身菩薩について——	竹林遊	一八四
131	唯識学派における法界の観念について		
132	——『仏地経論』と『成唯識論』を中心に——	吉村誠	一八八
133	基撰とされる『成唯識論別抄』について	林香奈	一九五
134	唐初期三一権実論争の起因に対する論争当事者の認識	小野嶋祥雄	二〇〇
135	「大通結縁」に関するいくつかの問題	神達知純	二〇五
136	智顗の教学における観音菩薩の階位説——吉蔵との比較を中心として——	日比宣仁	二二二
137	智湧了然の二義判釈について	弓場苗生子	二二六
138	吉蔵『法華論疏』における佛身の理解について	藤野泰二	二三〇
139	吉蔵の浄土観に関する一考察——『観経義疏』を中心として——	榎屋達也	二二六
140	『大乘義章』と真諦訳書	岡本一平	二三〇
141	善導の著作と龍門阿弥陀造像記——『観経疏』十四行偈石刻の新発見——	倉本尚徳	二三四
142	曇鸞における智慧と名号——親鸞における「智慧の名号」の基礎的考察——	田中無量	二四〇
	曇鸞と禅観思想	真名子晃征	二四六

145	西明寺藏『龐居士語録』の詩偈について……………	大橋 崇弘……………二五〇
144	趙州「狗子仏性話」の展開——真歇清了による表詮と遮詮の統合——……………	若山 悠光……………二五五
143	元暁『涅槃宗要』における引用文の検討……………	藤井 教公……………二五九
	信楽峻磨先生を偲ぶ……………	龍溪 章雄……………二六七
	訃報……………	二七一
	研究発表および論文掲載に関する規則……………	二七三
	日本印度学仏教学会賞選考規約……………	二七四
	日本印度学仏教学会企画編集委員会内規……………	二七五
	日本学術会議だより……………	八二九
	第65回学術大会パネル発表報告……………	八三五
146	Rgveda X 128 Vihavya-Sūkta の展開……………	西村 直子……………八四三
147	パーニニ文法における補完システム—— <i>ad</i> と <i>ghas</i> の交代をめぐる問題——……………	尾園 絢一……………八五〇
148	古典インドの「沐浴」——「ラーマヤナ」を中心として——……………	森 真理子……………八五六
149	『ブリハット・カローッタラ』におけるガウリー儀礼について……………	
	——マントラを中心に……………	篠田 淳子……………八六〇
150	苦しみの起る原因の共通表現—— <i>Āyāraṅga-sūtra</i> と <i>Suttanipāṭa</i> ——……………	渡辺 研二……………八六六
151	生き物を殺さないための性的禁欲……………	
	——ジャイナ教在家信者の行動規範を中心に……………	堀田 和義……………八七二
152	Maṇḍanamiśra 著 <i>Sphoṭasiddhi</i> における <i>Dharmakīrti</i> 批判の一断面……………	
	——音の順序と意味理解について……………	川尻 道哉……………八七九
153	<i>Padārthadharmasaṅgraha</i> について……………	
	その注釈書における内属と結合の関係項 (<i>sambandhin</i>) について……………	平野 克典……………八八五
154	<i>Tattvacintāmaṇi</i> における <i>pramāṇa-śabda</i> の意味……………	岩崎 陽一……………八九〇
155	パーリ聖典における輪廻と識についての一考察……………	
	——識の <i>ava-vāraṇa</i> を中心に……………	名和 隆乾……………八九五

156	Saddharmajotikā 僧院 U Pho Thi 図書館蔵書所蔵貝葉古写本調査報告	笠松 直	九〇二
157	Padya-Lalitavistara 第17章の研究	楊 暁華	九〇六
158	『八千頌般若』と『法華経』の共通性 ——構想・教説の展開・物語をめぐって——	岡田 行弘	九一四
159	小品系般若経について	鈴木 健太	九二一
160	『三昧王経』第32章における saṃjñā の位置について	宮崎 泉	九二九
161	『四卷楞伽』と『楞伽経』——「求那跋陀羅訳」の特徴——	堀内 俊郎	九三五
162	『金光明経』における陀羅尼品の研究——「金勝陀羅尼品」を中心に——	ウルジーヤルガル	九三九
163	世親の『俱舍論』『唯識二十論』とヴァーツヤヤーナ、ウツディヨータカラ ——全体、原子、唯識論の検証——	森山 清徹	九四七
164	有対・無対門	楠 宏生	九五二
165	説一切有部の極微論——『順正理論』における和集極微の解釈について——	一色 大悟	九五七
166	得 (prāpti) ・非得 (apṛāpti) と無為 (asaṃskṛta) の関連性	村上 明宏	九六一
167	satkāyadṛṣṭi 再考	水野 和彦	九六五
168	『中観明』における Karmadhāraya 解釈の勝義の位置付け	林 玄海	九六九
169	「信」(śraddhā) と「無明」(avidyā) ——ヴァスバンドウの『五蘊論』における定義を巡って——	室寺 義仁	九七七
170	『瑜伽師地論』における心所説の再考	高務 祐輝	九八一
171	『中辺分別論』第V章「無上乘品」における波羅蜜多説について	Vo Thi Van Anh	九八五
172	前六識の俱生——『五蘊論』安慧釈をもとに——	佐藤 智岳	九八九
173	『理趣広経』のプダク写本と『吉祥最勝本初広釈』との関連性について	徳重 弘志	九九四
174	インド後期仏教密教における『所得等虚空タントラ』の位置と性格 ——ラトナーカラシャーンティ註『カサマー』の解釈を中心に——	大観 慈聖	九九九
175	ダルモーツタラの直接知覚論——その独自性と理論的背景——	西沢 史仁	一〇〇五
176	吐蕃に於ける律蔵の蔵訳	原田 覺	一〇一三

177	<i>Rgyud bu chung</i> に見られるペマリンパの思想……………	安田章紀……………	一〇一九
178	コントウル『大中観他空説手引』について……………	槇殿伴子……………	一〇二五
179	『賢愚経』と『金光明最勝王経』の蔵訳者について……………		
180	——捨身飼虎本生話を中心として……………	石田勝世……………	一〇三〇
181	康僧会と建初寺——寺号の由来について……………	伊藤千賀子……………	一〇三六
182	敦煌写本『無量寿経』の系統について……………	堀 祐彰……………	一〇四二
183	『華嚴五教章』における「理」……………	中西 俊英……………	一〇四八
184	方等時に属する經典分類を通しての五時説の意味の再考……………	崔 恩 英……………	一〇五四
185	唐・知恩『金剛般若経義記』の作者について……………	蕭 文 真……………	一〇五八
186	朝鮮・枕肱懸辯の念佛觀について……………	韓 普光(泰植)……………	一〇六五
187	『三國遺事』における神の受戒について……………	孫 眞(政完)……………	一〇七〇
188	『諸法実相鈔』独自の本仏義——思想史上の成立年代をめぐって……………	山 浦 歩……………	一〇七四
189	禪籍の英訳について——『正法眼蔵』を中心として……………	梅 原 豪 一……………	一〇七八
190	高野山靈宝館の設立過程に関する一考察——「宝物館書類」を中心に……………		
191	アウンサンスーチーが用いたパリー仏典……………		
	——仏教の社会化と民主主義の諸原理……………	田 崎 國 彦……………	一〇八七
	仏教文献のための構造的なデジタルテキストの記述と活用……………	永 崎 研 宣……………	一〇九四